

### 3. 家庭教育

#### (1) 家庭の教育力の変化

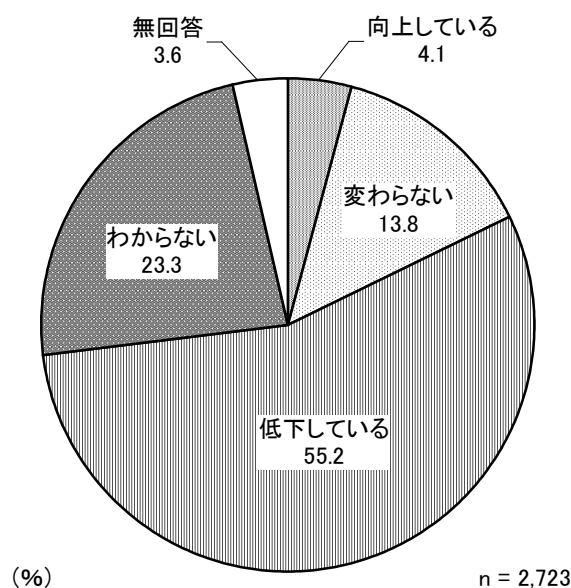
◇「低下している」が5割台半ば

国や地方自治体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭での教育を支援する施策を講ずるよう努めることとなっています。本調査は、家庭教育について市民の皆さんのご意見を伺い、今後の施策展開の参考とさせていただくものです。

※このアンケートにおける「家庭教育」とは、家庭において保護者が、家族のふれあいを通して、子どもに基本的な生活習慣、他人に対する思いやり、善悪の判断などの基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的マナーなどを身につけさせるために行う教育のことを言います。また、「家庭の教育力」とは、「家庭教育」において家庭が果たす役割のことを言います。

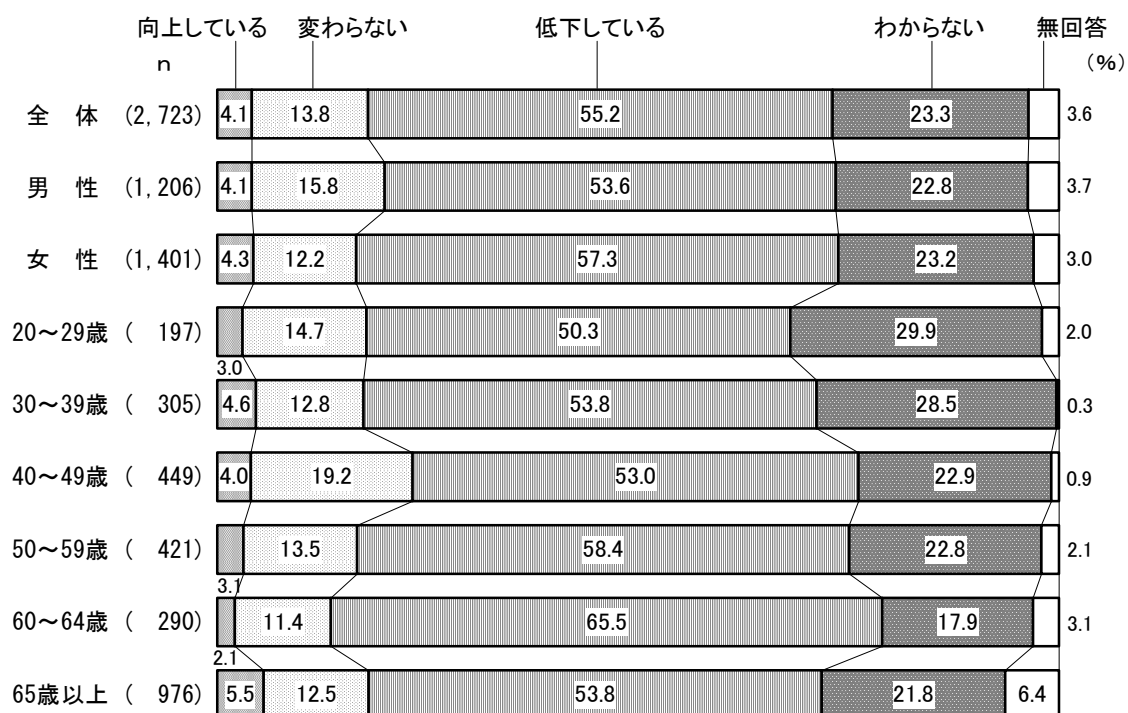
問15 あなたは近年、家庭の教育力がどう変化していると思いますか。(○は1つだけ)

図3-1-1 家庭の教育力の変化—全体



近年、家庭の教育力がどう変化していると思うか聞いたところ、「低下している」(55.2%)が5割台半ばで多くなっている。「変わらない」(13.8%)は1割強で、「向上している」は4.1%となっている。(図3-1-1)

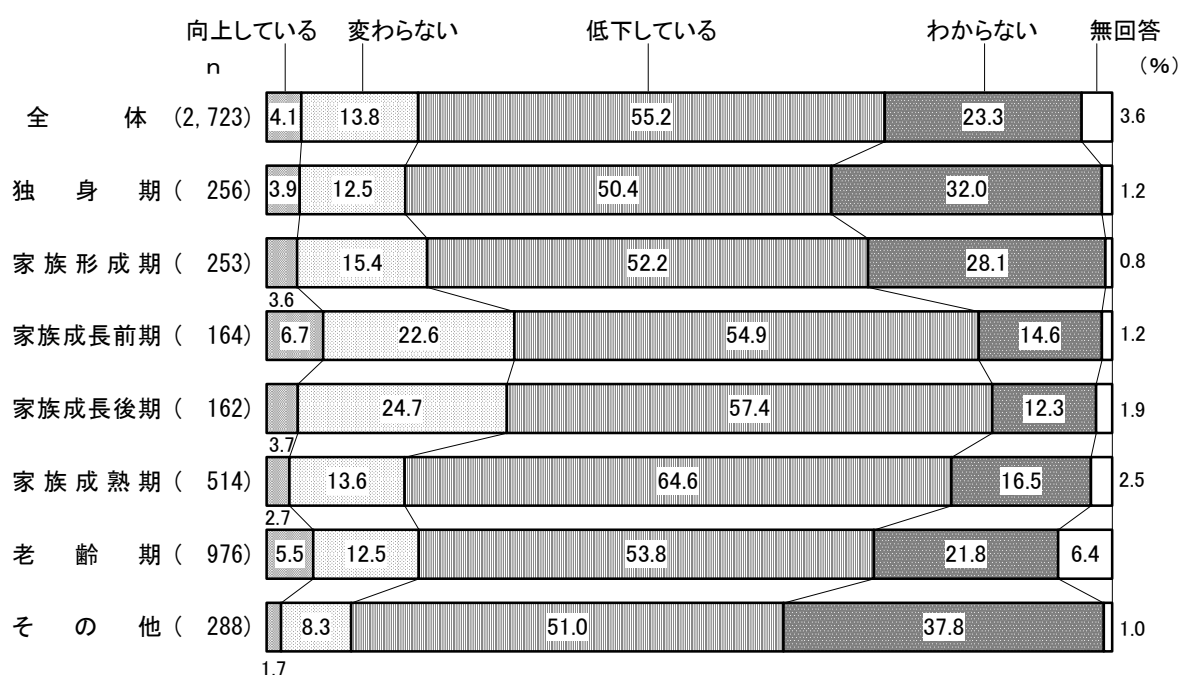
図 3-1-2 家庭の教育力の変化—性別・年齢別



性別にみると、「低下している」は女性（57.3%）が男性（53.6%）より3.7ポイント高くなっている。「変わらない」は男性（15.8%）が女性（12.2%）より3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「低下している」は60~64歳（65.5%）で6割台半ばと多くなっている。「変わらない」は40~49歳（19.2%）で2割弱と多くなっている。（図3-1-2）

図 3-1-3 家庭の教育力の変化—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「低下している」は家族成熟期（64.6%）で6割台半ばと多くなっている。「変わらない」は家族成長後期（24.7%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-1-3）

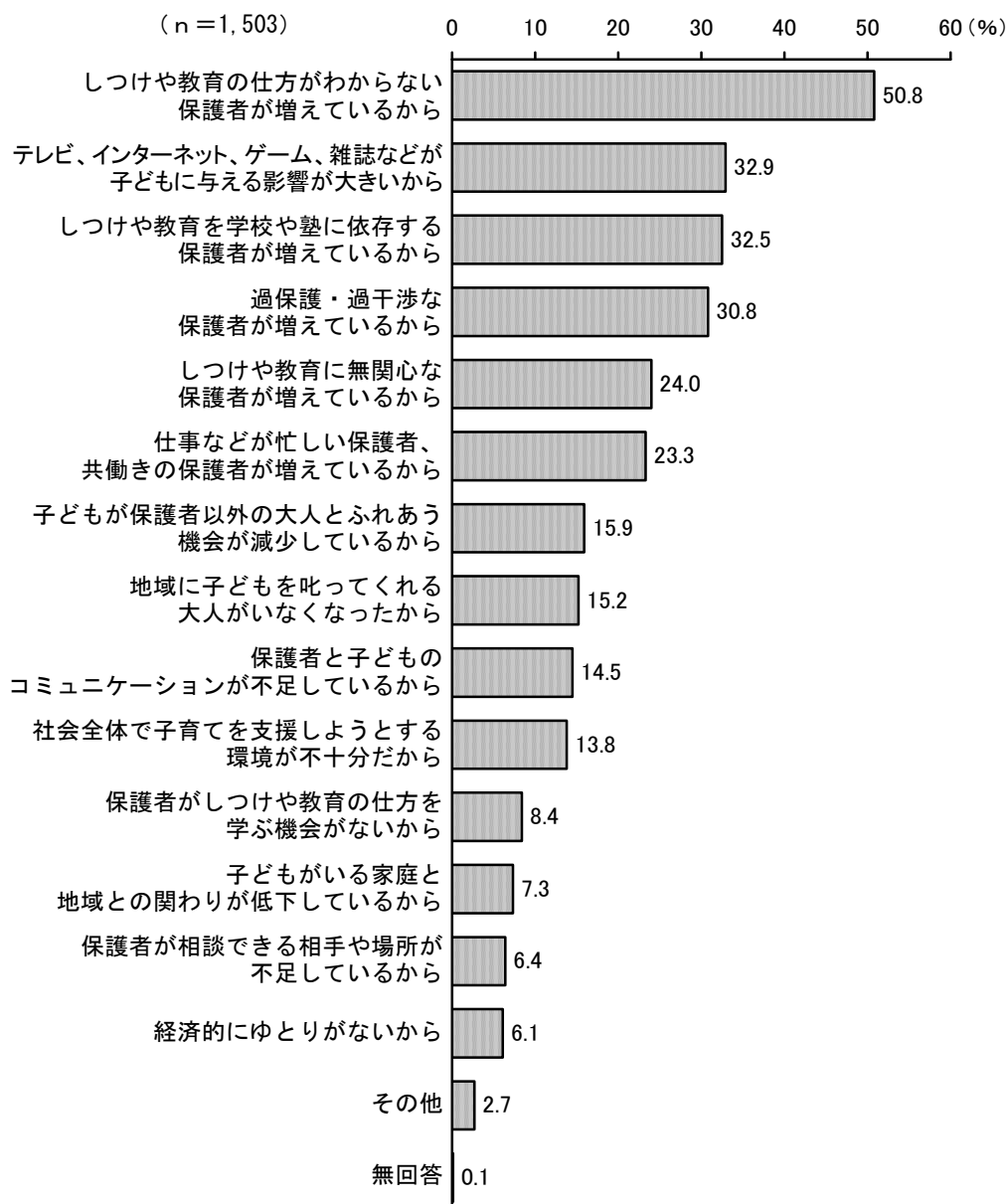
## (2) 家庭の教育力が低下していると思う理由

◇「しつけや教育の仕方がわからない保護者が増えているから」が約5割

(問15で、「低下している」とお答えの方に)

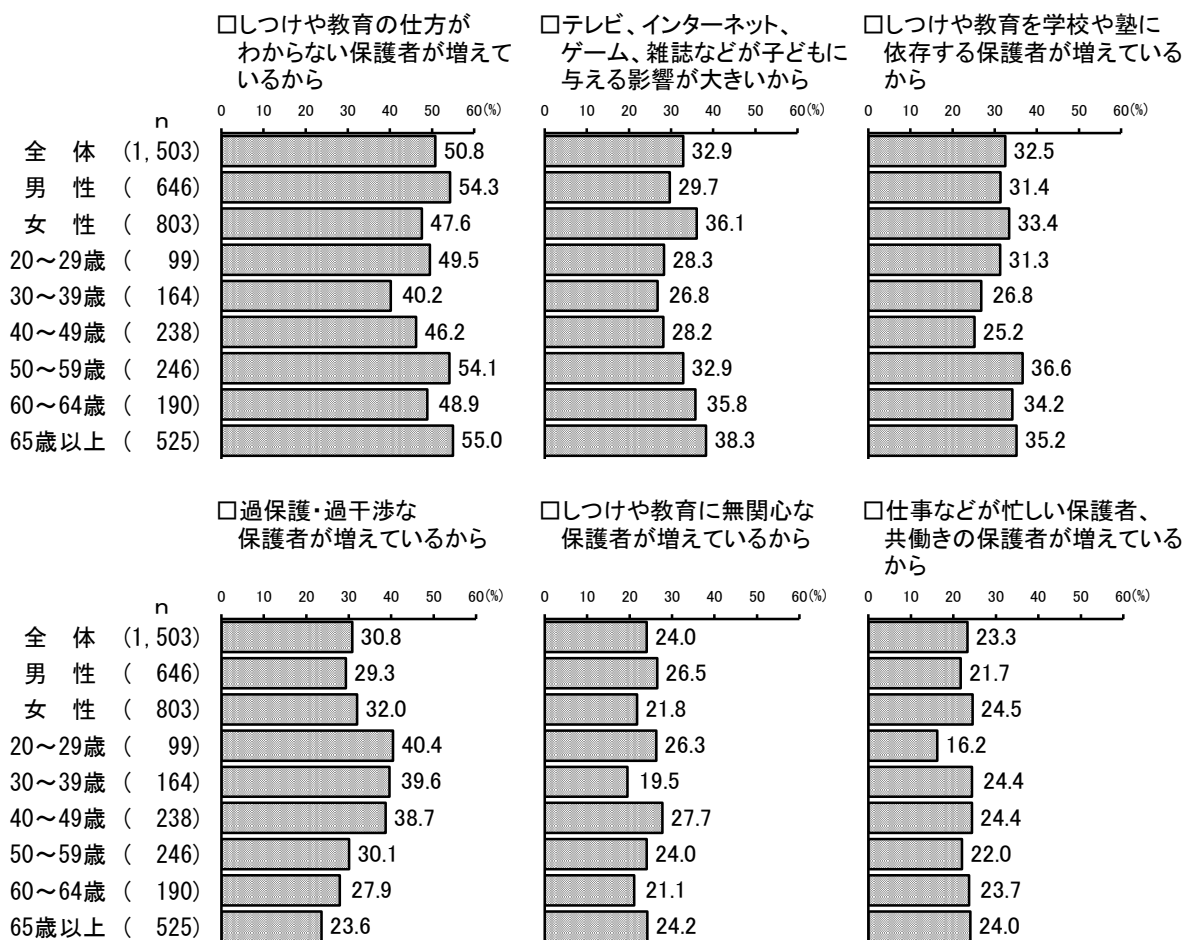
問15-1 家庭の教育力が低下している理由は何だと考えますか。(○は3つまで)

図3-2-1 家庭の教育力が低下していると思う理由-全体



近年、家庭の教育力が「低下している」と回答した1,503人に、その理由を聞いたところ、「しつけや教育の仕方がわからない保護者が増えているから」(50.8%)が最も多く約5割となっている。次いで「テレビ、インターネット、ゲーム、雑誌などが子どもに与える影響が大きいから」(32.9%)、「しつけや教育を学校や塾に依存する保護者が増えているから」(32.5%)、「過保護・過干渉な保護者が増えているから」(30.8%)などの順となっている。(図3-2-1)

図3-2-2 家庭の教育力が低下していると思う理由－性別・年齢別（上位6位）

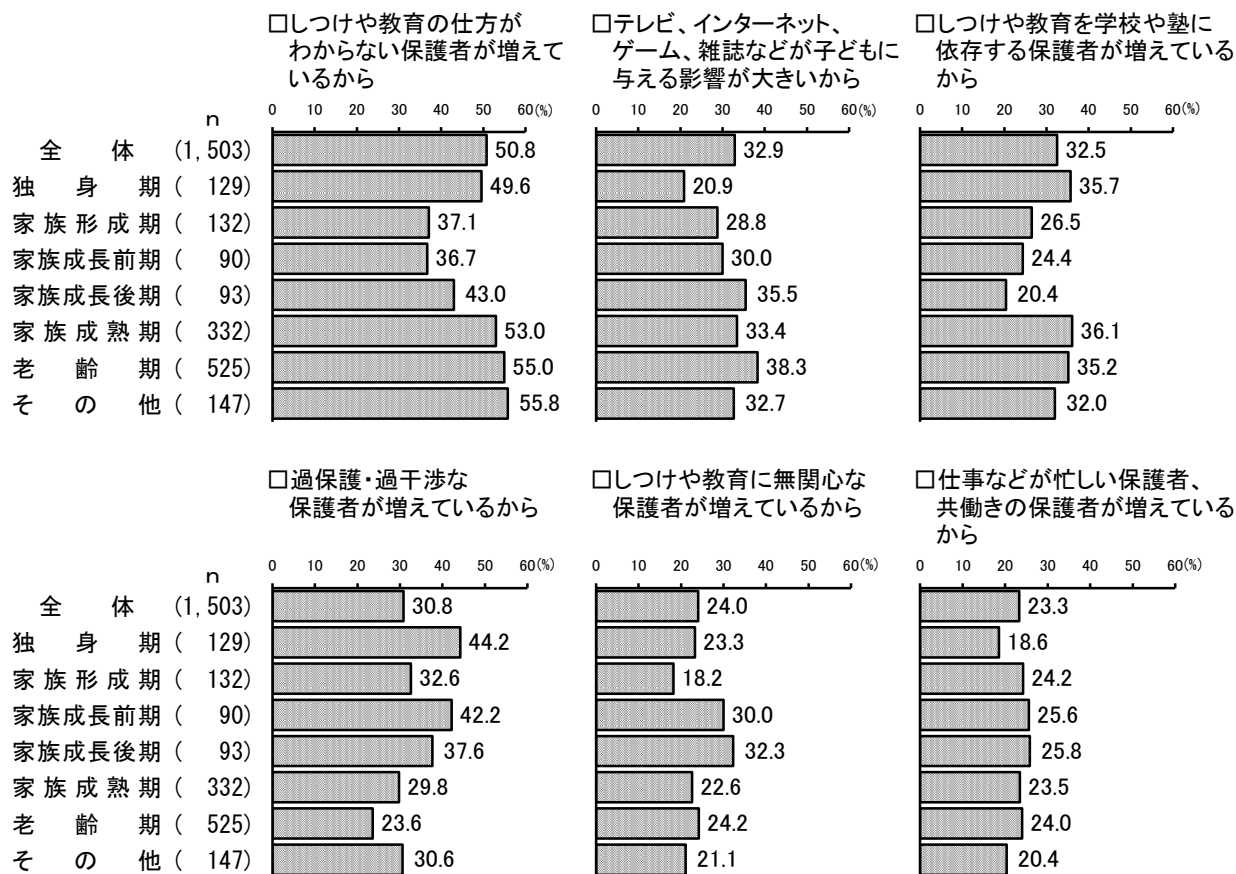


性別にみると、「しつけや教育の仕方がわからない保護者が増えているから」は男性（54.3%）が女性（47.6%）より6.7ポイント高くなっている。「テレビ、インターネット、ゲーム、雑誌などが子どもに与える影響が大きいから」は女性（36.1%）が男性（29.7%）より6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「しつけや教育の仕方がわからない保護者が増えているから」は65歳以上（55.0%）で最も多く5割台半ばとなっている。「テレビ、インターネット、ゲーム、雑誌などが子どもに与える影響が大きいから」は65歳以上（38.3%）で4割近くと多くなっている。「過保護・過干渉な保護者が増えているから」は20～29歳（40.4%）で約4割と多くなっている。

（図3-2-2）

図3-2-3 家庭の教育力が低下していると思う理由－ライフステージ別（上位6位）



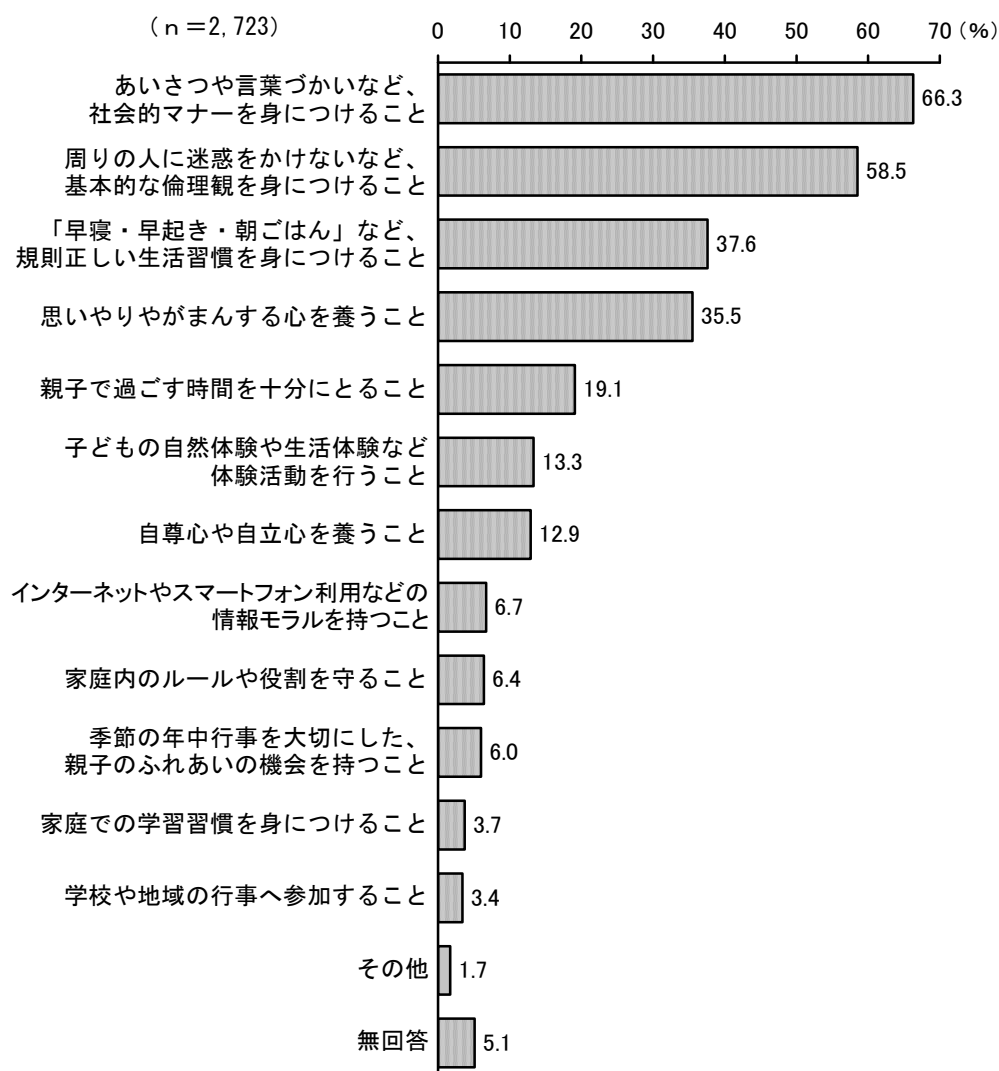
ライフステージ別にみると、「テレビ、インターネット、ゲーム、雑誌などが子どもに与える影響が大きいから」は老齢期（38.3%）で4割近くと多くなっている。「過保護・過干渉な保護者が増えているから」は独身期（44.2%）で4割台半ばと多くなっている。「しつけや教育に無関心な保護者が増えているから」は家族成長後期（32.3%）で3割強と多くなっている。（図3-2-3）

### (3) 家庭での子どもとの関わり方で保護者が重視すべきこと

◇「あいさつや言葉づかいなど、社会的マナーを身につけること」が7割近く

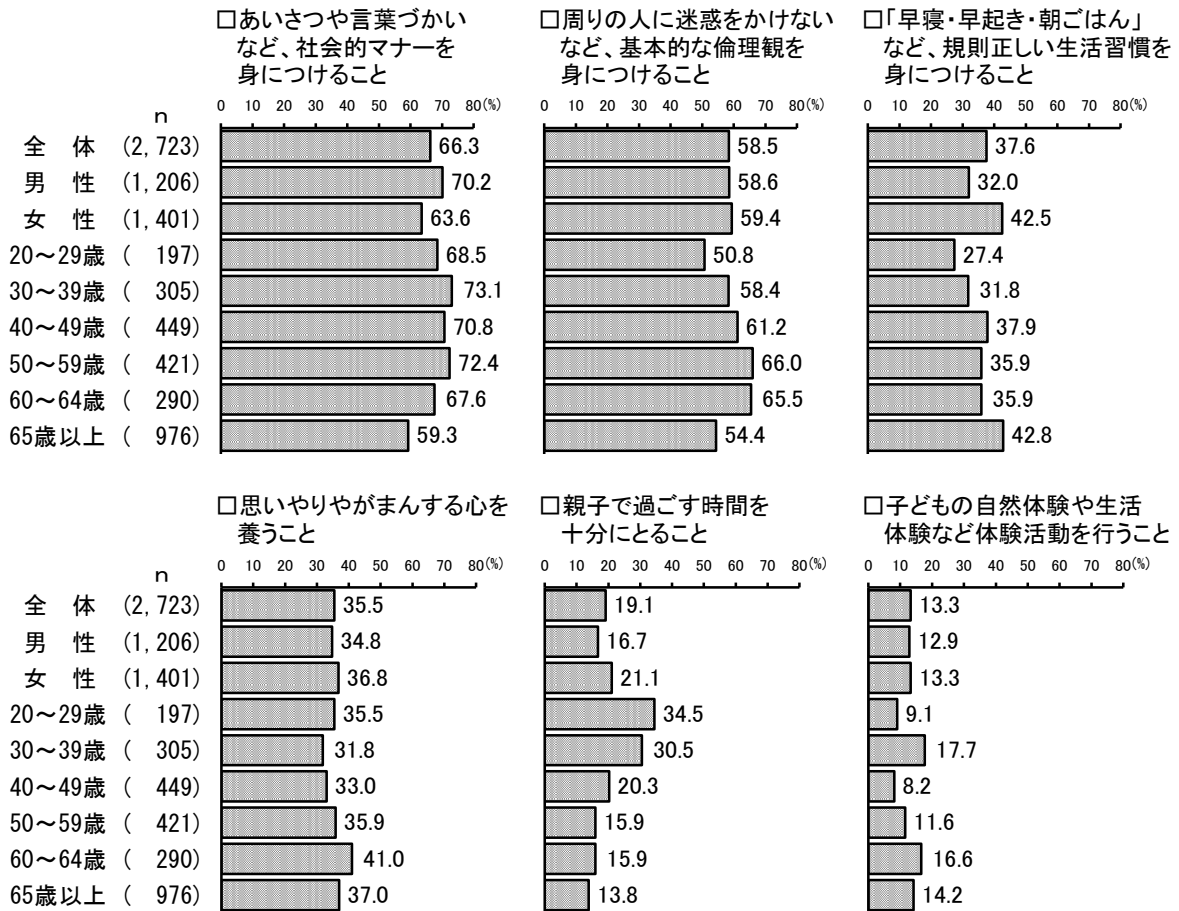
問16 家庭での子どもとの関わり方で保護者は何を重視すべきと考えますか。(〇は3つまで)

図3-3-1 家庭での子どもとの関わり方で保護者が重視すべきことー全体



家庭での子どもとの関わり方で保護者は何を重視すべきか聞いたところ、「あいさつや言葉づかいなど、社会的マナーを身につけること」(66.3%)が最も多く7割近くとなっている。次いで「周りの人に迷惑をかけないなど、基本的な倫理観を身につけること」(58.5%)、「『早寝・早起き・朝ごはん』など、規則正しい生活習慣を身につけること」(37.6%)、「思いやりやがまんする心を養うこと」(35.5%)などの順となっている。(図3-3-1)

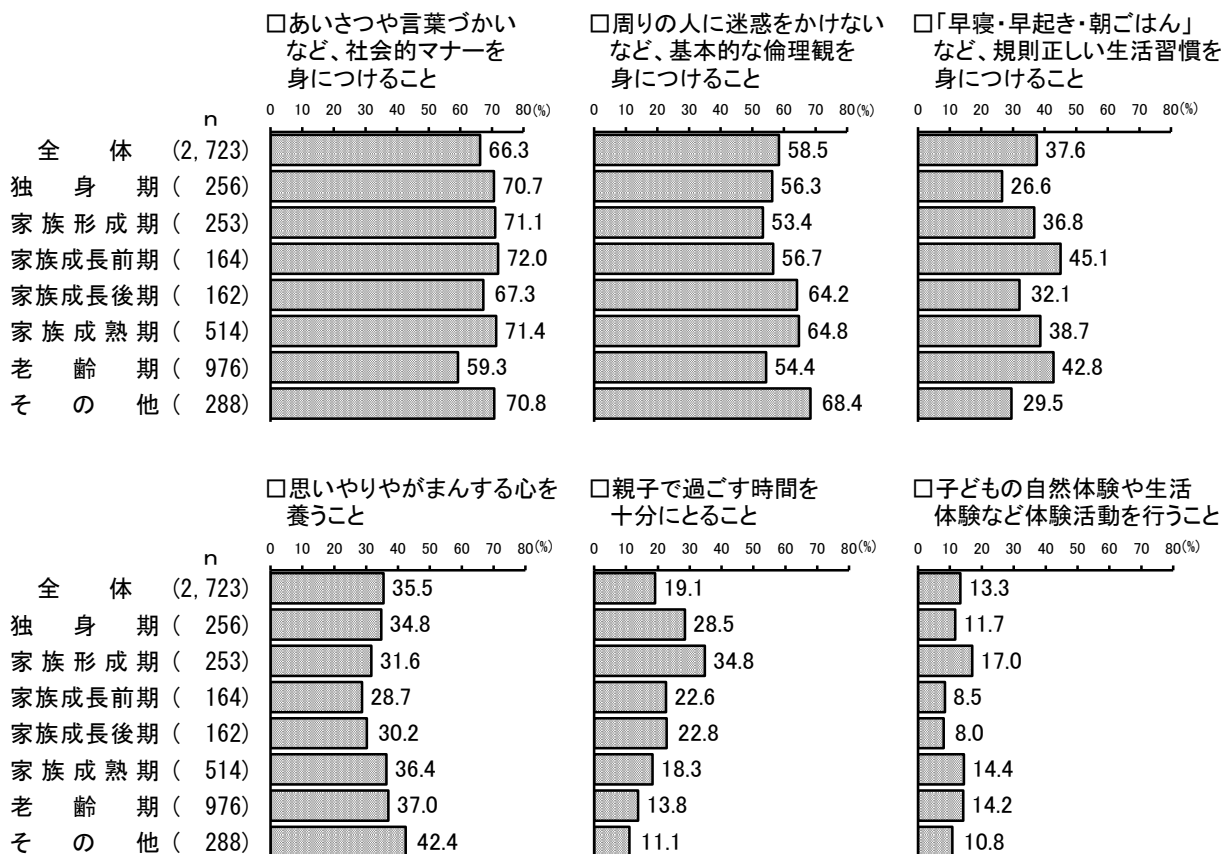
図3-3-2 家庭での子どもとの関わり方で保護者が重視すべきこと一性別・年齢別（上位6位）



性別にみると、「『早寝・早起き・朝ごはん』など、規則正しい生活習慣を身につけること」は女性（42.5%）が男性（32.0%）より10.5ポイント高くなっている。「あいさつや言葉づかいなど、社会的マナーを身につけること」は男性（70.2%）が女性（63.6%）より6.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「あいさつや言葉づかいなど、社会的マナーを身につけること」は30~39歳（73.1%）で最も多く7割強となっている。「周りの人に迷惑をかけないなど、基本的な倫理観を身につけること」は50~59歳（66.0%）で7割近くと多くなっている。「親子で過ごす時間を十分にとること」は20~29歳（34.5%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-3-2）

図3-3-3 家庭での子どもとの関わり方で保護者が重視すべきこと—ライフステージ別（上位6位）



ライフステージ別にみると、「『早寝・早起き・朝ごはん』など、規則正しい生活習慣を身につけること」は家族成長前期（45.1%）で4割台半ばと多くなっている。「親子で過ごす時間を十分に取ること」は家族形成期（34.8%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-3-3）

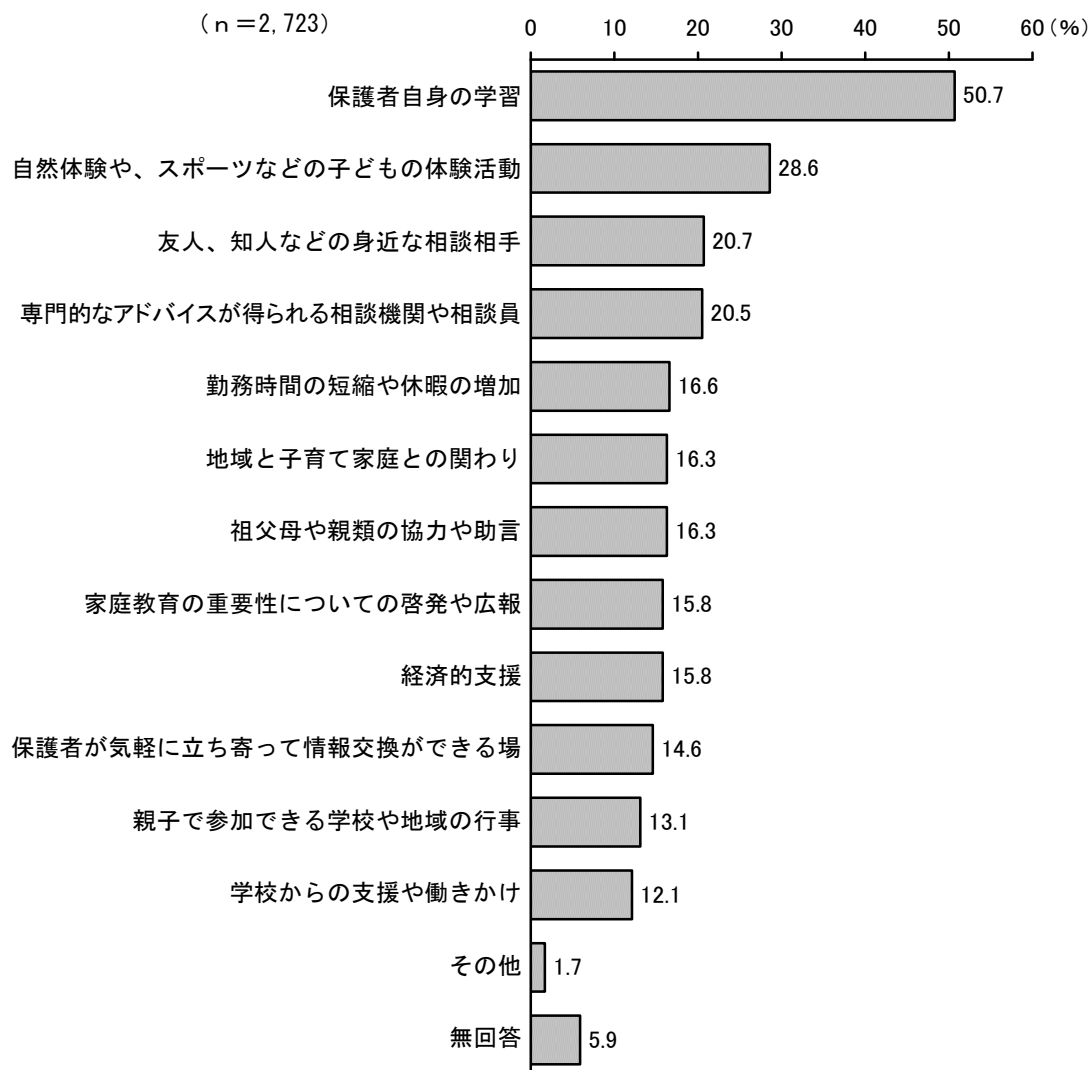


#### (4) 家庭の教育力を向上させるために必要なこと

◇「保護者自身の学習」が約5割

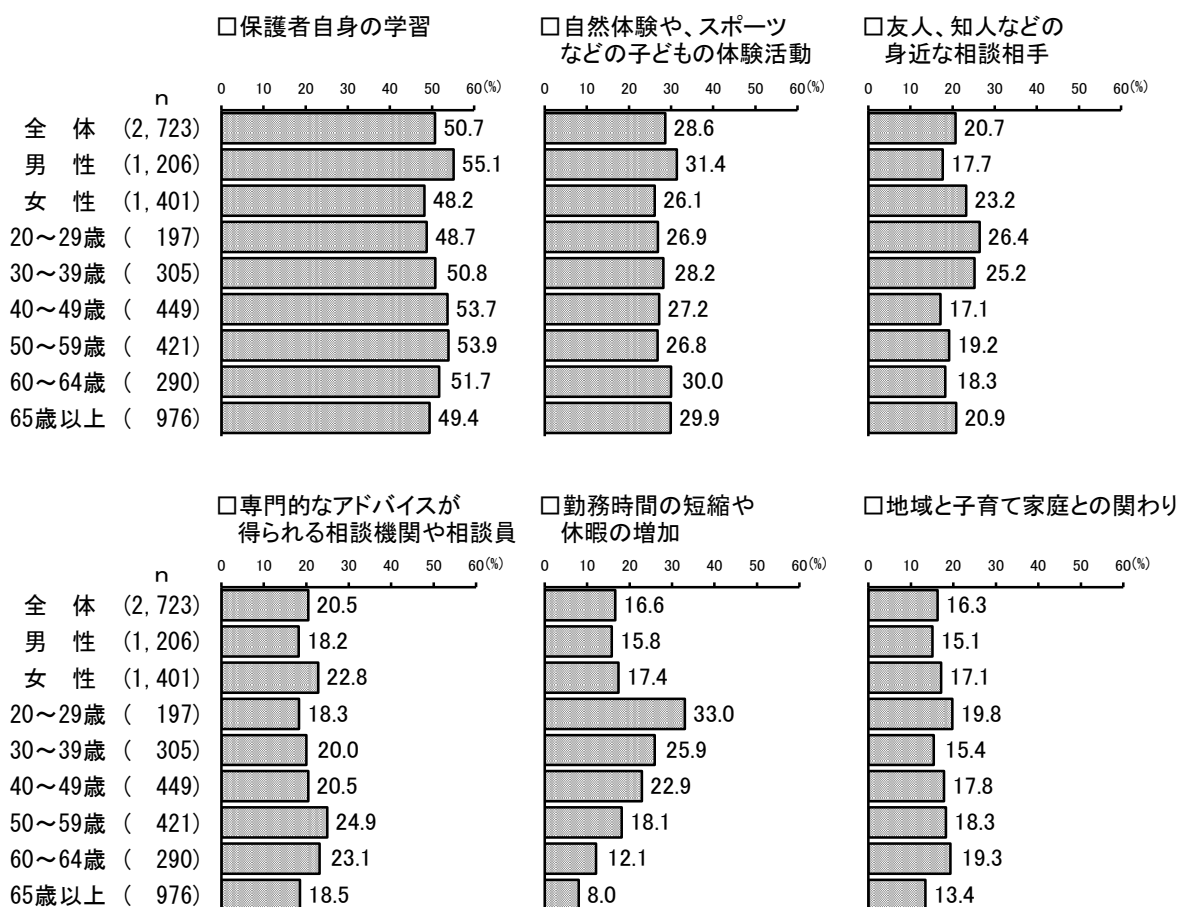
問17 あなたは、家庭の教育力を向上させるためには何が必要と考えますか。(〇は3つまで)

図3-4-1 家庭の教育力を向上させるために必要なことー全体



家庭の教育力を向上させるためには何が必要と考えるか聞いたところ、「保護者自身の学習」(50.7%)が最も多く約5割となっている。次いで「自然体験や、スポーツなどの子どもの体験活動」(28.6%)、「友人、知人などの身近な相談相手」(20.7%)、「専門的なアドバイスが得られる相談機関や相談員」(20.5%)などの順となっている。(図3-4-1)

図3-4-2 家庭の教育力を向上させるために必要なこと－性別・年齢別（上位6位）

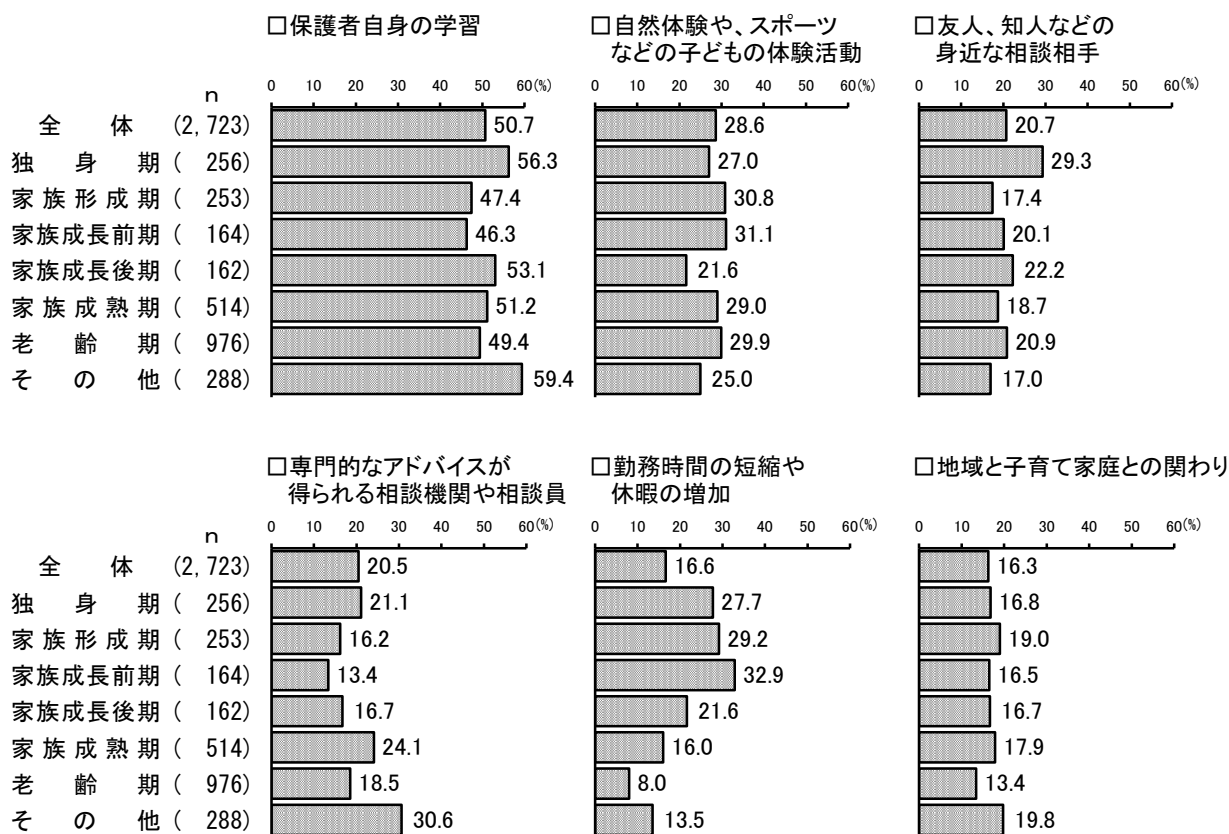


(注) 回答率が16.3%の2項目のうち、「地域と子育て家庭の関わり」を選択した人は445人、「祖父母や親類の協力や助言」を選択した人は443人であるため、回答者が多い「地域と子育て家庭の関わり」を第6位として掲載した。

性別にみると、「保護者自身の学習」は男性（55.1%）が女性（48.2%）より6.9ポイント高くなっている。「友人、知人などの身近な相談相手」は女性（23.2%）が男性（17.7%）より5.5ポイント高くなっている。「自然体験や、スポーツなどの子どもの体験活動」は男性（31.4%）が女性（26.1%）より5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「友人、知人などの身近な相談相手」は20~29歳（26.4%）で3割近くと多くなっている。「勤務時間の短縮や休暇の増加」は低い年代ほど割合が多くなっており、20~29歳（33.0%）で3割強と多くなっている。（図3-4-2）

図3-4-3 家庭の教育力を向上させるために必要なこと—ライフステージ別（上位6位）



(注) 回答率が16.3%の2項目のうち、「地域と子育て家庭の関わり」を選択した人は445人、「祖父母や親類の協力や助言」を選択した人は443人であるため、回答者が多い「地域と子育て家庭の関わり」を第6位として掲載した。

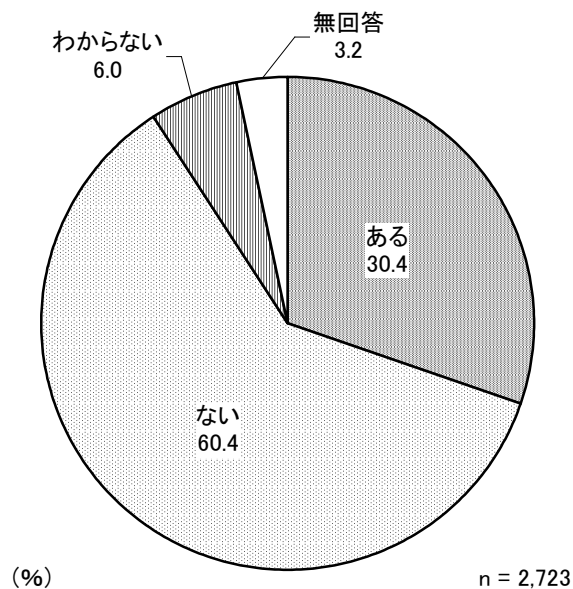
ライフステージ別にみると、「友人、知人などの身近な相談相手」は独身期（29.3%）で3割弱と多くなっている。「勤務時間の短縮や休暇の増加」は家族成長前期（32.9%）で3割強と多くなっている。（図3-4-3）

## (5) 家庭教育について学習をした経験

◇「ある」が約3割

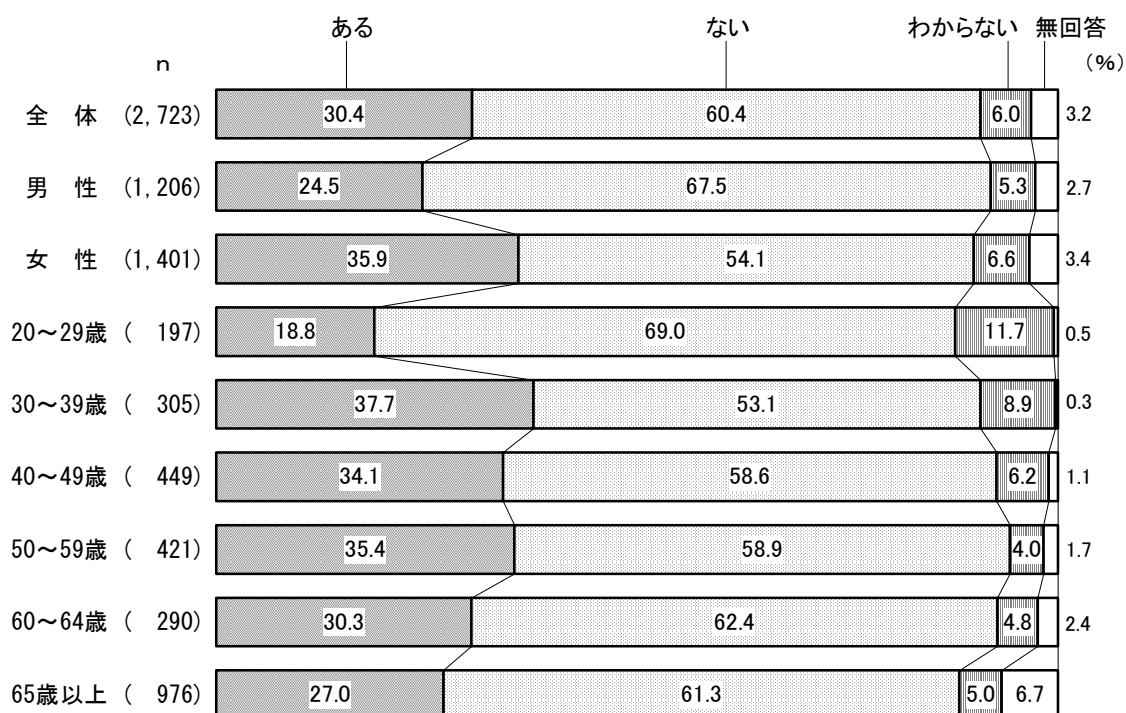
問18 あなたは、家庭教育について、講演会や講座、または本やテレビ、インターネットなどを通じて、学習をしたことがありますか。(○は1つだけ)

図3-5-1 家庭教育について学習をした経験—全体



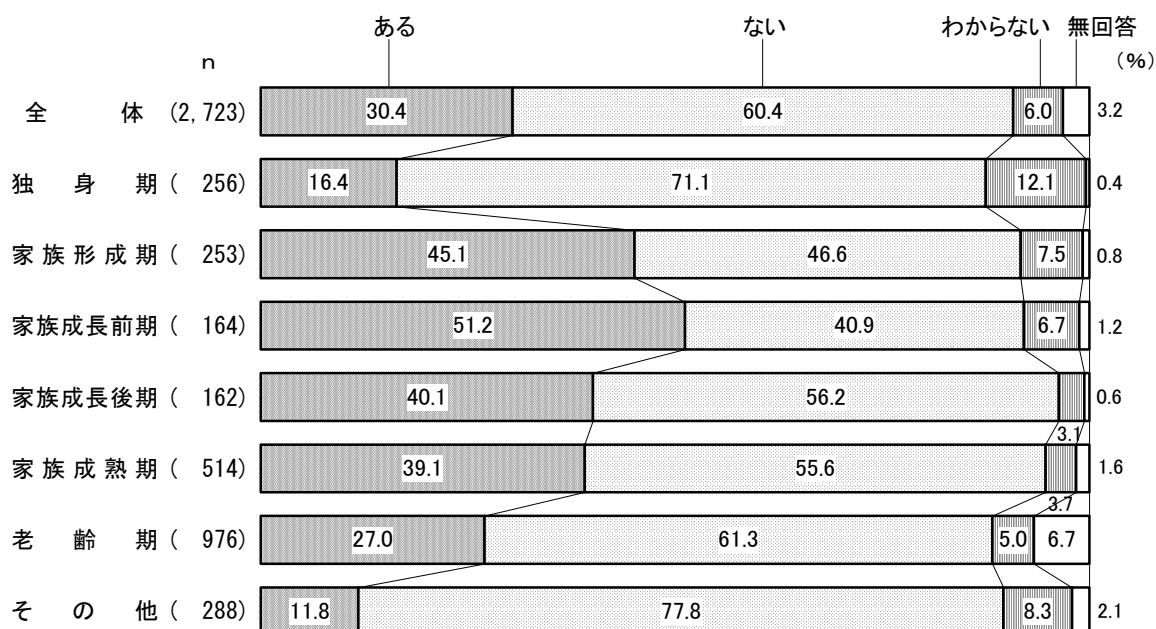
家庭教育について、講演会や講座、または本やテレビ、インターネットなどを通じて、学習をしたことがあるか聞いたところ、「ある」(30.4%)が約3割、「ない」(60.4%)が約6割となっている。(図3-5-1)

図3-5-2 家庭教育について学習をした経験—性別・年齢別



性別にみると、「ある」は女性（35.9%）が男性（24.5%）より11.4ポイント高くなっている。年齢別にみると、「ある」は30~39歳（37.7%）で4割近くと多くなっている。一方、「ない」は20~29歳（69.0%）で7割弱と多くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 家庭教育について学習をした経験—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「ある」は家族成長前期（51.2%）で5割強と多くなっている。一方、「ない」は独身期（71.1%）で7割強と多くなっている。（図3-5-3）

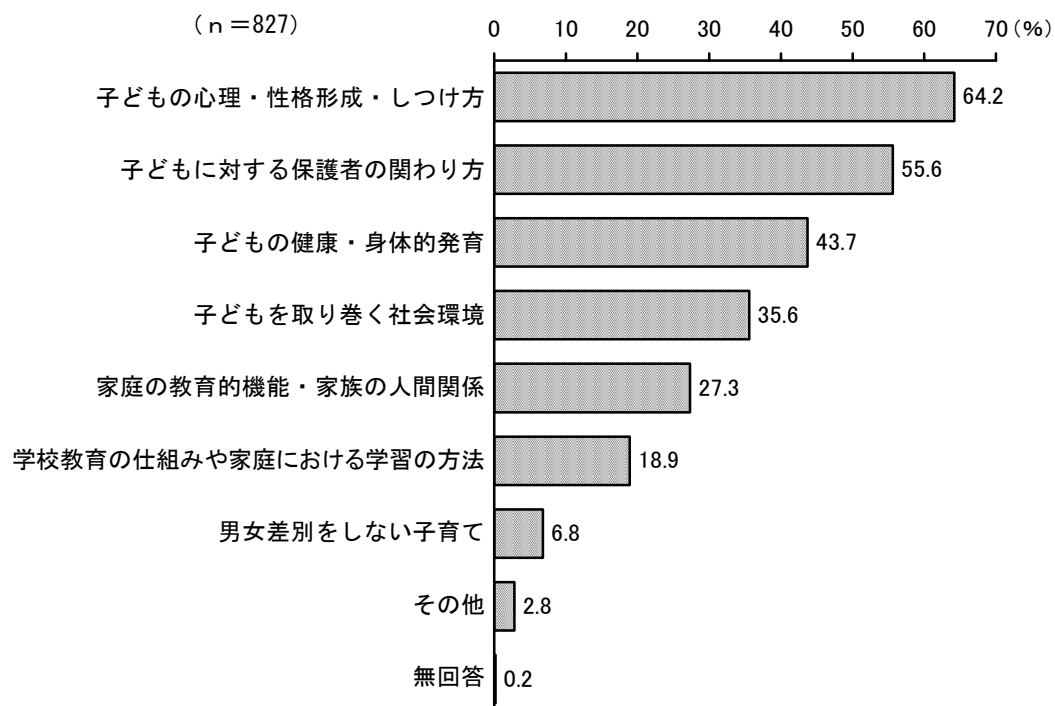
## (6) 家庭教育について学習したこと

◇「子どもの心理・性格形成・しつけ方」が6割台半ば

(問18で、「ある」とお答えの方に)

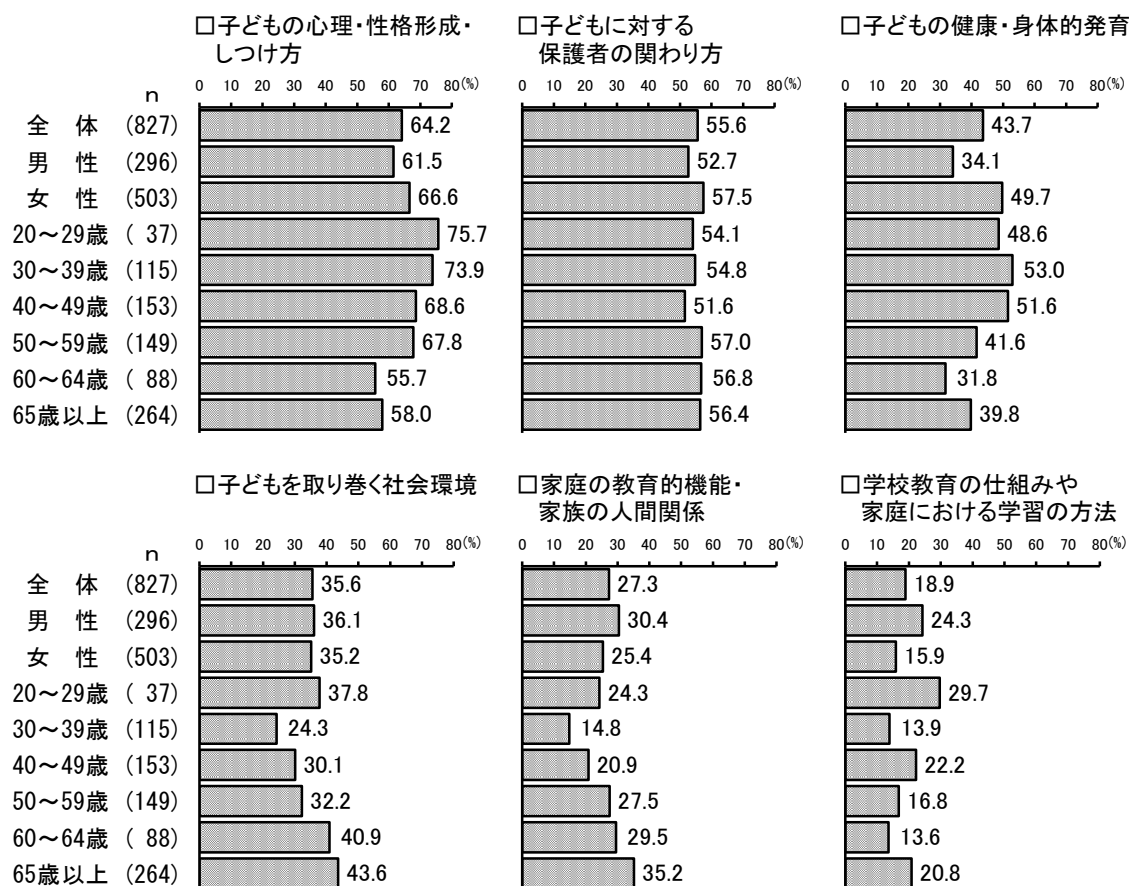
問18-1 それはどのような内容のものですか。(〇はいくつでも)

図3-6-1 家庭教育について学習したことー全体



家庭教育について、学習をしたことが「ある」と回答した827人に、それはどのような内容のものか聞いたところ、「子どもの心理・性格形成・しつけ方」(64.2%)が最も多く6割台半ばとなっている。次いで「子どもに対する保護者の関わり方」(55.6%)、「子どもの健康・身体的発育」(43.7%)、「子どもを取り巻く社会環境」(35.6%)、「家庭の教育的機能・家族の人間関係」(27.3%)などの順となっている。(図3-6-1)

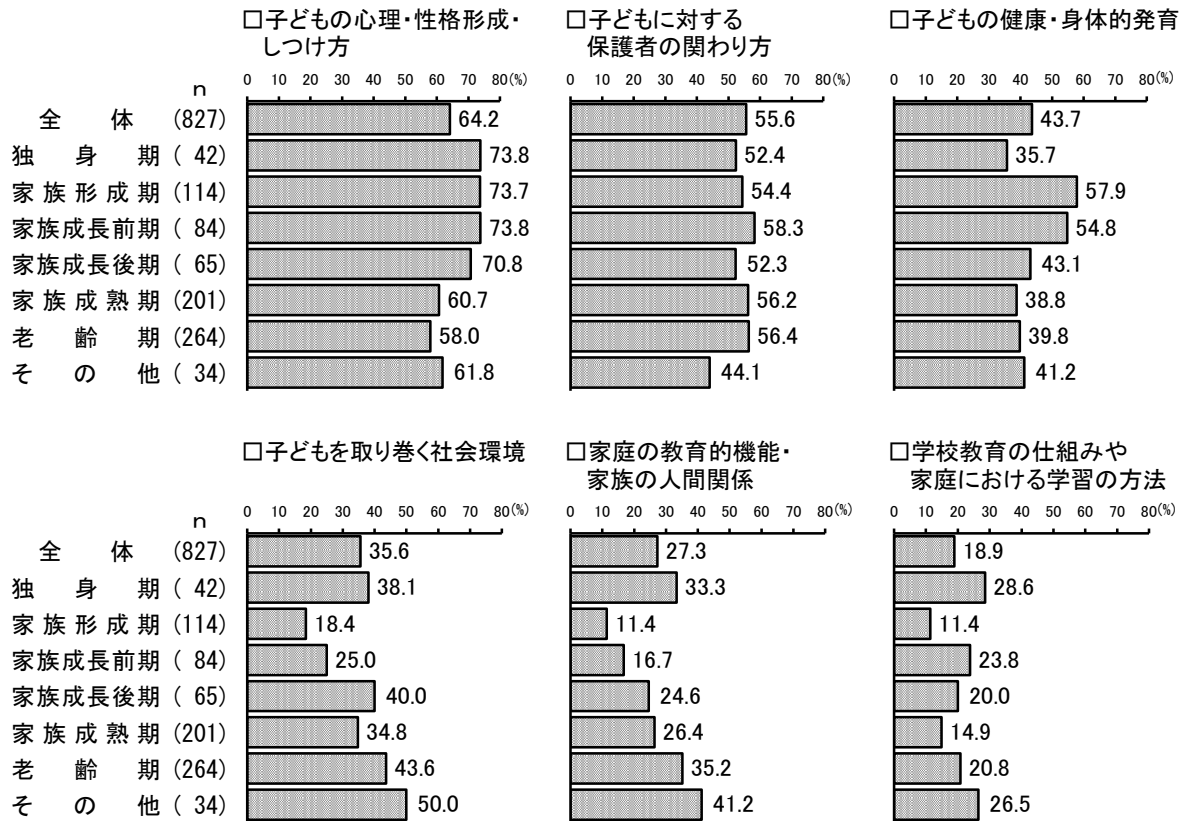
図3-6-2 家庭教育について学習したこと—性別・年齢別（上位6位）



性別にみると、「子どもの健康・身体的発育」は女性（49.7%）が男性（34.1%）より15.6ポイント高くなっている。「学校教育の仕組みや家庭における学習の方法」は男性（24.3%）が女性（15.9%）より8.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「子どもの心理・性格形成・しつけ方」は20~29歳（75.7%）で7割台半ばと多くなっている。「子どもの健康・身体的発育」は30~39歳（53.0%）で最も多く5割強となっている。「学校教育の仕組みや家庭における学習の方法」は20~29歳（29.7%）で3割弱と多くなっている。（図3-6-2）

図3-6-3 家庭教育について学習したこと—ライフステージ別（上位6位）



ライフステージ別にみると、「子どもの心理・性格形成・しつけ方」は独身期（73.8%）、家族成長前期（73.8%）、家族形成期（73.7%）で7割強と多くなっている。「子どもの健康・身体的発育」は家族形成期（57.9%）で6割近くと多くなっている。「学校教育の仕組みや家庭における学習の方法」は独身期（28.6%）で3割近くと多くなっている。（図3-6-3）

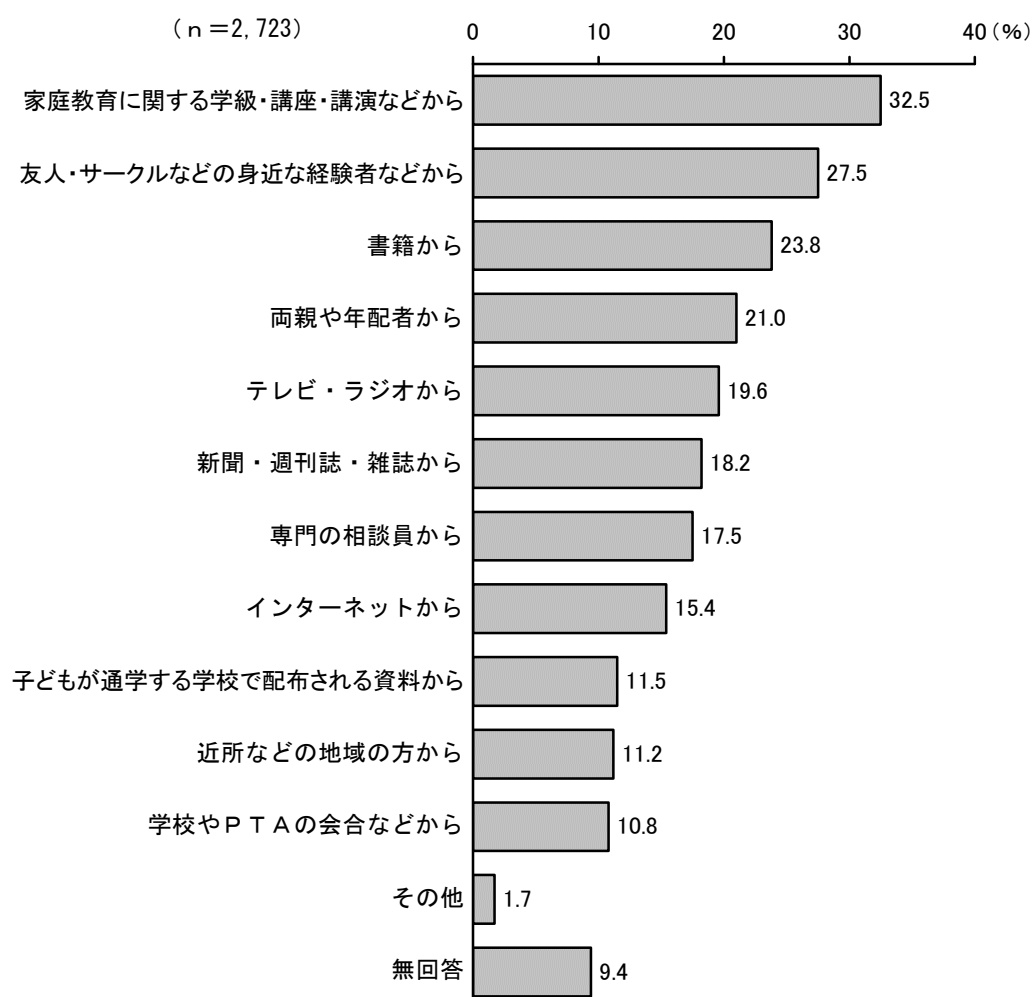


## (7) 家庭教育について学習する方法

◇「家庭教育に関する学級・講座・講演などから」が3割強

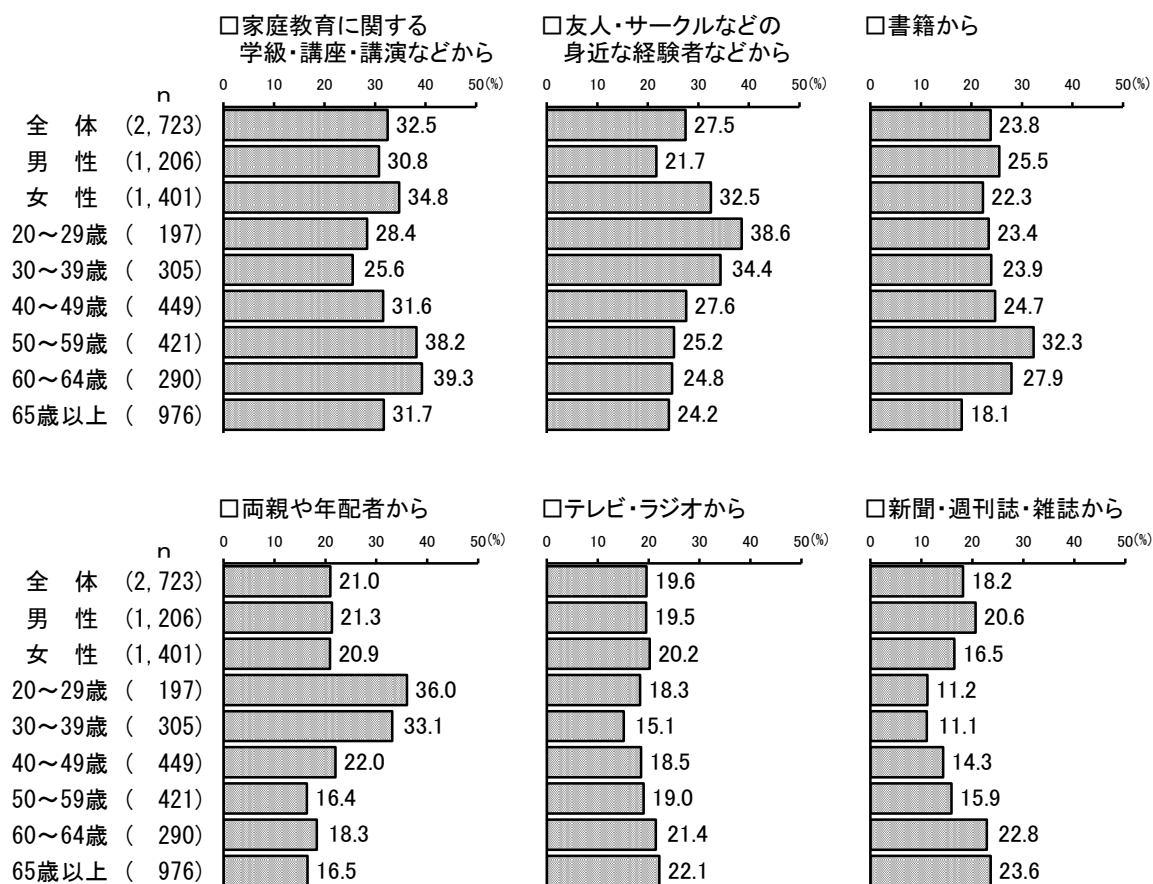
問19 あなたが家庭教育について学習をするとしたら、どのようなものから学習したいと思いますか。(〇は3つまで)

図3-7-1 家庭教育について学習する方法—全体



家庭教育について学習をするとしたら、どのようなものから学習したいと思いますか聞いたところ、「家庭教育に関する学級・講座・講演などから」(32.5%)が最も多く3割強となっている。次いで「友人・サークルなどの身近な経験者などから」(27.5%)、「書籍から」(23.8%)、「両親や年配者から」(21.0%)、「テレビ・ラジオから」(19.6%)などの順となっている。(図3-7-1)

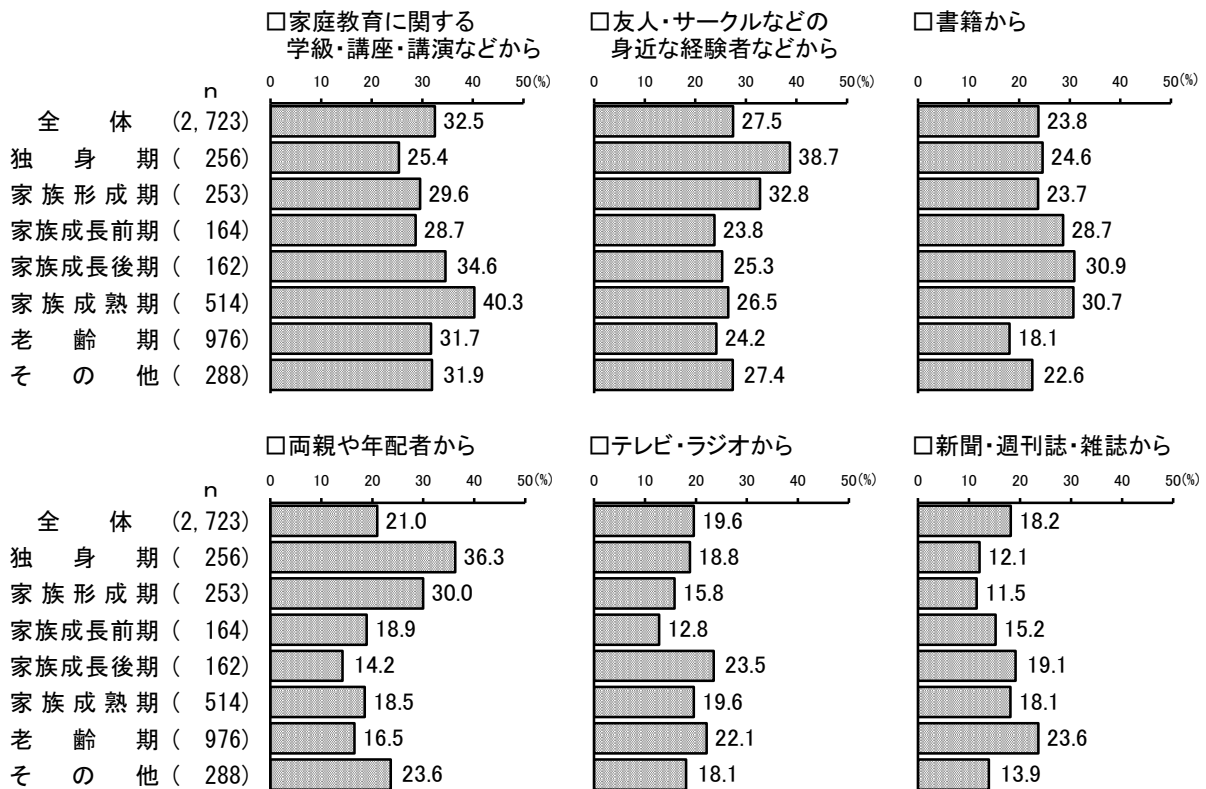
図3-7-2 家庭教育について学習する方法—性別・年齢別（上位6位）



性別にみると、「友人・サークルなどの身近な経験者などから」は女性（32.5%）が男性（21.7%）より10.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「家庭教育に関する学級・講座・講演などから」は60～64歳（39.3%）で4割弱と多くなっている。「友人・サークルなどの身近な経験者などから」は20～29歳（38.6%）で4割近くと多くなっている。「書籍から」は50～59歳（32.3%）で3割強と多くなっている。「両親や年配者から」は20～29歳（36.0%）で4割近くと多くなっている。（図3-7-2）

図3-7-3 家庭教育について学習する方法—ライフステージ別（上位6位）



ライフステージ別にみると、「家庭教育に関する学級・講座・講演などから」は家族成熟期（40.3%）で約4割と多くなっている。「友人・サークルなどの身近な経験者などから」は独身期（38.7%）で4割近くと多くなっている。「書籍から」は家族成長後期（30.9%）で最も多く約3割となっている。「両親や年配者から」は独身期（36.3%）で4割近くと多くなっている。（図3-7-3）